

印
紙

マンション修繕 価格開示方式 工事下請契約書

このテンプレート【RMAJ】の利用上の注意点

- (1) このテンプレート【RMAJ】は、マンション修繕価格開示方式工事請負契約（オープンブック方式及びコストプラスフィー契約）に際し、元請負人と下請負人との間で取り交わす契約書のひな形です。
- (2) 『マンション修繕 価格開示方式 工事下請契約書』は、このテンプレート【RMAJ】の名称です。本プロジェクトの実態に合わせ、他の契約書との整合性を考慮し、名称を定めて下さい。
- (3) この工事下請契約書は、委託者と受託者との間でRM業務委託契約が締結され、プロジェクトが実施されている前提のもとで、取り交わして下さい。
- (4) この工事下請契約書では、工事費（工事価格+取引に係る消費税及び地方消費税の額）を定め、これを契約金額としています。
- (5) 利用に当たっては、《注：〇〇》《**選択条項** 〇〇》《**任意条項** 〇〇》などのコメントを参考して下さい。

プロジェクト : ○○○○○
元請負人 : ○○○○○
下請負人 : ○○○○○

元請負人と下請負人は、本プロジェクトにおける価格開示〇方式工事請負について、本契約書の条項及び下記添付書類に基づき、マンション修繕価格開示方式工事下請契約（以下「本契約」という）を締結する。

添付書類一覧

- ・ マンション修繕価格開示方式工事下請契約約款（以下「本約款」という）
- ・ マンション修繕価格開示〇方式共通細則（以下「細則」という）
《注：細則は、本プロジェクトにおいて、工事請負以降を対象とする契約書に共通して添付される書類》
- ・ 設計図書類（○○○、○○○、○○○、○○○、○○○、）

《注：本約款第2条第1項より、設計図書類を構成する書類とは「施工範囲図、仕様書、積算数量集計表及び内訳表、現場説明書及び質問回答書その他、かつ、設計図面があるときは当該設計図面」をいう》

《注：ここでの記載は「設計図書類」を表記し、(括弧)のなかに、具体的な図書名称を列記する》

・ ○○内訳○○ (以下「内訳書」という)

《注：本約款第8条(事前開示書類)では、「内訳書」を元請負人に提出し承認を受けると定めている》

《本契約書では、施工体制の構築段階において、RM担当者の支援のもと見積書をもって元請負人と下請負人は内容について合意済みであるとの前提のもと、契約に際しては、見積書での内訳詳細を記載した頁を内訳書として本契約書に添付する》

《注：添付するものの名称は正確に記載すること。例えば「工事内訳明細書」であれば、その名称を記載する》

・ (仮称) 精算計算手順書

《注：本約款第4条第3項②では、精算の計算手順を書面で取り交わすと定めている》

《注：計算手順についての具体的な内容を、契約書本文に記載するのではなく、別紙としてまとめ、添付》

・ 《任意書類》 (仮称) インセンティブ報酬計算手順書

《注：本約款第3条第2項⑤を根拠とするインセンティブ報酬の実施を前提に、最終の精算を行う場合は、その計算手順を定め添付する》

《注：計算手順についての具体的な内容を、契約書本文に記載するのではなく、別紙としてまとめ、添付》

・ 《任意書類》 (仮称) アフターサービス基準

《注：本約款第3条第2項⑤では、アフターサービス特約を元請負人と下請負人との間で定めることができるとしている》

《注：アフターサービスの詳細を、契約書本文に記載しない場合は、別紙としてまとめ、添付する》

1. 対象となるマンション及び建築物の概要

(1) 場 所 : ○○○○

(2) 名 称 : ○○○○

(3) マンション概要 : 戸数○○戸 棟数○棟 別棟(附属施設)○○○

(4) 工事種別 : ○○○○○ 《注：特別な工事が無い場合は「マンション大規模修繕工事」と記載する》

(5) 規模等 : 《例：RC造、地上10階地下1階建、延べ面積9,999㎡などを、棟別に記載する》

《注：他に、必要であれば、竣工時期、敷地面積、建築面積などを記載》

2. 本プロジェクトの概要

- (1) 実施する価格開示方式の種類 : 価格開示○方式
(2) RM業務委託契約の締結日 : ○○年○○月○○日
(3) RM業務委託契約の委託者 兼 本プロジェクトの発注者
: ○○○○○
(4) RM業務委託契約の受託者 : ○○○○○
(5) オープンブック監査委託先 : 一般社団法人日本リノベーション・マネジメント協会
《注: このテンプレート【RMAJ】を利用する場合、(5) は変更不可》
《注: 第1条第2項の義務規定の確認のため、(2)(3)(4) を記載》

3. 工期

- (1) 着手 ○○○年○○月○○日
完成 ○○○年○○月○○日
引渡予定日 ○○○年○○月○○日
(2) 発注者と合意した引渡予定日前後の日を引渡日とし、発注者から直接工事を請け負った元請負人は、発注者への竣工図書の引渡しを行う。契約不適合責任及びアフターサービスなどの規定では、この引渡日を用いる。

4. 契約金額の設定

工事価格(工種別の工事原価及び一般管理費を合算した金額)の金額を定め内訳書に記載につき、その税込み金額である工事費を、次に示す。

工事費	金 0,000,000,000 円(税込み)
うち、工事価格の額	金 0,000,000,000 円
うち、取引に係る消費税及び地方消費税の額	金 0,000,000,000 円

5. 契約金額の変更

- (1) 契約金額の精算は、添付の(仮称)精算計算手順書に基づき実施する。
(2) 最終の精算で用いる金額が確定したときは、元請負人又は下請負人はその結果を精算調書で示し、元請負人は、本約款第27条(請求及び支払い)に基づき、その精算後の金額で契約金額の支払いを行う。

6. 契約金額の支払い

- (1) 元請負人は、4. 契約金額の設定に定める金額に基づき、(2)の規定に従い受注者に支払う。

《**選択条項** 支払い方法につき、案三つ(イロ)のいずれかを選択》

《イ案》

- (2) 毎月末日における工事の出来高に基づき支払い、5.(4)に基づき最終の精算支払いを行う。

《口案》

- (2) 第1回目（工事着手時） 金 0,000,000,000 円（税込み）
- 第2回目（部分払い時） 金 0,000,000,000 円（税込み）
- 第3回目（引渡しの時） 金 0,000,000,000 円（税込み）

《注：回数が上記と異なる場合は、支払いにつき合意した内容を記載する。また、部分払い時を含め日付を定め記載する場合もある》

第4回目において、5.（4）に基づき最終の精算支払いを行う。

《**要注意** 以下、（2）に続く、共通の規定》

(3) 支払いは、締め月の翌月末日とする。ただし、支払い期限の末日が金融機関の休日に当たるときは、直前の営業日とする。

(4) 元請負人は、下請負人が示す振込口座（振込手数料は〇〇〇の負担）に現金一括での振込をもって、支払う。

《注：振込手数料を負担する側として、元請負人・下請負人いずれかを記載》

7. アフターサービス

添付のアフターサービス基準に示すとおりとする。

《**任意条項** 合意管轄裁判所を定めない場合、8. は削除する》

8. 合意管轄裁判所

委託者及び受託者は、本契約に関する一切の紛争（裁判所の調停手続きを含む）は、〇〇地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とすることに合意する。

《注：地方裁判所名を記載》

《**任意条項** その他として、特約事項などを定める場合、9. で定める。内容に相応しい「〇〇に関する特約事項」など条の名称も任意》

9. 特約事項

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

本契約締結の証として本契約書を2通作成し元請負人及び下請負人が相互に記名押印のうえ各1通を保有する。

〇〇年〇〇月〇〇日

元請負人 住所又は所在地 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

氏名又は名称 〇〇〇〇〇〇会社 代表取締役 〇〇〇〇〇 (印)

下請負人 住所又は所在地 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

氏名又名称

〇〇〇〇〇会社 代表取締役 〇〇〇〇〇 ㊞

RMAJ ㊞